

刊夕日九廿月一



定額一圓金銀紙一円金五枚換券五枚換
廣告料五號十二字一圓一圓五換券
印刷部 電話六三〇
發行部 電話六三〇
編輯部 電話六三〇
印刷部 電話六三〇

我れとは何ぞや

眞 繼 雲 山

佛教は他人や女房の問題ではなくして「我れとは何ぞや」の解決である。

然らば佛教は、その「我れ」を如何に説明するかといふに凡夫なものであるといふ。謂はゆる無我といふが佛教の鐵則、基調となつてゐる。無我の一境を透過せねば悟りの境に到ることを許されない。

斯く筆を執り、斯く働きつゝある五尺の現身が本來無いのだといふことは一見、奇矯の言のやうであるが、仔細に詮議すると、成るほど永久に在るものといふ結論は生れて來ない先づ人生を五十年と相場づけて、その五十年は實在するものだと云ふ風に誰れでも考へてゐるが、所説の如しとすれば百年後には無きこと明らかである。

既に百年後に無きことが事實とすれば、五十年の道中は假設である。五十圓の現金に百圓の借用證書をクツ付けてゐるやうな話である。若しくは活動寫眞の映畫のやうなもので、どんなに道中が面白からうとも、結論が白布の幕であらうとは何人もうなづき得る。

第二に百年後の皆空は已むを得ぬとしても、歴史としての五十年は嚴として實在するではないかといふであらう。成るほど歴史としては有り得るが、それは捕へることの出來ぬ人間の概念でしかない。生きてゐる私たち人間としては所詮、只今の一秒時間以外には捕へ得べき何ものをも所有してゐるのではない。その一秒時間を五十年と勘違ひして人生は五十年也と考へるのは、たとへば火繩の一点をクルクルと旋廻して火はこれ圓形なりと誤認してゐる如き錯覺であり、少くとも五十年は空華の如き概念である。

然らばせめて現身只今の一秒時間だけは、確實に我が有であるかといふに、佛教においては、その一秒時間の所有主たる常一主宰の我れなるものは全然ないのだと説く。肉体はこれ邑受想行識といふ五蘊の假りに縁あつて集つたものであり謂はゆる條件の集合であるその條件が不和となり五大假分散すれば即時に灰となり土となる。

さて果敢なや、せめて

何の何兵衛といふ者の靈魂だけは永存するかといふに金がほしい名譽がほしいといふのは、肉身あつての上の話で、灰身滅智と共に、さうした慾求は雲散霧消する。残るのはたゞ業だけである。その生死輪廻の業障を斷つて自在の身を得るのが成佛である。

その成佛にも死んでから佛に成るとの現身即時に佛に成るとの二つがあるが、死んでから佛に成る話は、畢竟、概念の遊戯である。死して淨土に往生するといふ淨土門の教へは五十年先の架空談とすれば現在に用事はなく、その大悲の阿彌陀如来とは、西方十萬億土に在るのではなくして、現身の我が信心の内に如来が如實に宿り給ふの義に外ならぬ。

波調が違へばラヂオでさへ聞えぬやうに、彌陀と別個の作をもちて彌陀の懷ろへ入り得やう筈がない。彌陀と一味になりてこそ往生が叶ふことである。永生といひ往生といふのは、彌陀と申すその眞實の中に、現身のまゝ、速疾に歸入することより外にはない。それを忘れて概念に因はれ、假相に固着するときそこに生死があり無常があり愛別離苦がある。それを出離したと

ころが寂滅最樂の境である人情として悲しい時に泣くのもよいが、皆空無我眞如實相を悟つての上の哀樂には昏倒するほどの苦しみが無い。同じ涙にも涙の色合といふものがあるそれが信仰の味はひであり法悦の一境である。

ころが寂滅最樂の境である人情として悲しい時に泣くのもよいが、皆空無我眞如實相を悟つての上の哀樂には昏倒するほどの苦しみが無い。同じ涙にも涙の色合といふものがあるそれが信仰の味はひであり法悦の一境である。

眼鏡特賣

高級レンズ

獨逸ユーゲン光學工場製
ブランクトリヒ
特價 三圓五十錢
舶來生地メニスレンズ
一圓より
近視用 三圓より
三稜鏡 三圓より
學生向クロムム三十錢
實用梓セル巻より

其他最新型各種
特價 提供
醫家の處方に依り眼鏡親切に調製
見習 店員入用十四五歳位

谷眼科院御用

服箱箱

細色柄物... 三ッ揃... 拾貳圓
最新柄... 三ッ揃... 拾三圓五十錢
スコッチ... 三ッ揃... 拾六圓五十錢
最上紺黒... 三ッ揃... 拾九圓

平町正札堂洋服店 電話四三六

門 專

産科 婦人科 花柳病科

◎入院應需

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

玉屋洋品店

平町田町通電話二五六番

吉田眼科病院

平町星町 電話六八八番

優良にして徳用經濟なる

特製店のハカリ賣り
ポマード及クリームの御使用をおすすめいたします

純植物性 ポマード
純良なる椿油を以て精製したるもので石鹼で一度洗ひばサラリと落ちます
弊店で友達や知人によつて試みした上の自慢の製品です一度お使用を願ひます

高級 クリーム
今まで、ハカリ賣りクリームと云ふと、瓶詰クリームより悪いとの定評でありましたが、このクリームはその様なこと絶對ありません
弊店特製... 保證の品です、お最負を願ひます。瓶詰よりは随分お徳です

純正椿油
髪油の撰擇は充分御注意を拂はねばなりません、粗悪なる油の御使用は髪のため却つて非常なる弊害を來します。安心して御使用の出來る當店取扱の正椿油(一合六十錢)の御使用をおすすめいたします

大島 特産 ◎正椿油特約販賣店

ポマード 製造元 田卷香油店
各種香油 平二丁目 電話四一五番

日一日と進展する

平庶民金庫の業績

現在組合員七百八十名

六年度總益金三萬餘に

這般總代會に於いて報告可決を見た信用組合平庶民金庫の事業報告に依ると

組合員は六年度に於いて

百八十八名を増加し脱退者五十八名を出し、差引百卅名の増加にて、二口數に於ては一千一百四十三口を増加し、二百四十五口の脱退を見差引八百九十八口の増加にて

現在四千三百九口此人員七百八十名に達して居るまた貯金は、各種を合併し

前年度未現在十二萬四千三百五十四圓十三錢であつたが六年度受入金は八十九萬一千六百四十八圓、拂戻八十七萬八千四百七十圓四十七錢にて

現在十三萬七千四百七十九圓八十四錢を算して居る次に

貸付金は手形證書等を合併して

前年度未現在二十二萬二千四百八十五圓五十錢が六年度は卅五萬四千八百六十四圓六十錢にて償還高は廿七萬一千八百廿一圓八十六錢

現在卅萬五千五百廿八圓卅一錢にて此件數一千八百五

十四件に及んで居る、右に關し青沼組合長は語る現下の經濟界は依然

不振の狀態に在つて

中小商工業業者の疲弊に更に深刻を加へ随つて産業經濟資金需要の激増を見て居る、此時に當り當組合は財界の推移と組合の實狀を考察し其の福利増進と生活改善に資するを念として居る故に

諸般の事業確實に進展し年々固定貸付金の整理償却を爲し基礎も又堅實を加へ、定期、當座、團體等の貯金、組合員の加入増加及び日掛償還金の増加を來し且つ組合員

一般が、共在共榮の本質を理解せらるゝに至つた事は甚だ喜びとする處である、因に同年度總益金は三萬四千四百卅圓廿六錢、總損金二萬四千九百四十七圓十八錢にて差引三千廿五圓五十錢は剩餘金となり是れが處分は左記の如く

配當金は出資拂込濟の年六分に當つて居る

(準備金)三千廿五圓五十錢(配當金)四千五百卅一圓十七錢(別途積立金)

千六圓卅九錢(役員退職給與基金)百廿圓(役員賞與金)八百圓

競賣處分の入札者皆無

平町における五年度後期分戸數割營業稅、雜種稅等の滞納につき當局はこれが督促整理に腐心してゐるも尙

三百二十二件金額三千二百卅五圓の滞納あり餘儀なく廿日競賣處分に附したが舊正月を控へ一般の金融逼迫から入札者皆無の狀態で一件の處分もつかず二月二日再入札することになつた

選挙事務所視察 縣社寺兵事課長永瀬英一氏は今回の總選舉投票用紙交付並に選挙事務の視察の爲め本日來平した

町村長會延期 既報石城町村長支會總會は來る卅日平町役場にて村井知事

臨席のもとに行はれる筈であつたが知事の巡視が延期された爲め同總會も來月二日迄延期に決定したと

村井知事來平延期

來月二日に

既報、村井本縣知事の石城に於ける初巡視は明卅日の豫定であつたが總選舉準備に忙殺され來月二日に延期された

郡農會の總會

新事業は少い

既報、石城郡農會では昨日總會を同所樓上に開催されたが同會本年度豫算は一萬三〇廿二圓、事業費七千三百六十六圓であつて本年度新事業として富民協會の水稲多收競争加入、中堅農民講習會、其他二件何れも可決された尙は農會評、議員の改選の結果泉村上遠野定治郎氏、また縣農會豫備議員

農事視察決定 石城郡農會では關西地方農事視察員として昨日の總會に於いて左の諸氏が決定した

鷺清昇(植田) 蛭田虎次郎(上遠野) 綠川義貞(田人) 小野貞義川(部平山) 藤吉(三坂) 吉田勝彦(小川) 吉田甚藏(大野) 青天目信次郎(勿來)

小川信用總會 石城郡小川村信用組合では卅日午後一時より同村小學校にて通常總會を開き昨年度の

事業報告及損益計算の發表剩餘金の處分案其他に就いて協議すると

平町人事

結婚 姻

△六間町二十、直木延甫氏(三)石城郡植田町字東町一八太田ヨシ(三)

△五丁目一九、永山孝之助(三)

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

拜啓 寒冷の候貴台益々御清榮の段奉慶賀候、陳者今回家事都合に依り突然鎌田町の自宅に移轉仕候間何卒今後も倍舊の御交誼願上度く實は早速拜趨御挨拶可申上處轉居早々の事として混雜中に付き乍略儀不取敢以書中御通知迄如斯御座候 匆々 昭和七年一月二十九日 荒川銀治

舊歲暮福引大賣出し

舊十一月廿二日より廿八日迄 現金御買上貳圓毎に福引券一枚呈上仕候 年未年始の御贈答には「三井」の商品券贈るに便利受けて重寶

- 特等 丸帯又ハ小紋
- 壹等 高貴織又ハ本場銘仙
- 貳等 瓦斯反物又ハ帶地
- 參等 敷布又ハメリヤス
- 肆等 風手 富貴
- 伍等 御手 富貴

先仕入の底値品豊富取揃へて在りますから是非此の機を逸せず御買上の程お待ち申上げます

三井吳服店

平町電話三八・二八四

時計眼鏡 トキワヤ 平一・電三三九

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器 關内藥局 電話四〇番

大飯を食へるのは 十歳から十六まで

救護法實施々米に依り 平町役場が調査

平町では救護法實施による施米關係上今回市内における要救護者卅余戸についてこれが飯米量の調査を行つて見たその結果に依ると

十七歳以上六十歳までは一人平均一日三合、十歳以上十六歳までは發育盛りで一番食へることが判つた以上十六歳までは三合五

江名出身吉田上等兵 左前額部に貫通銃創

去る十七日滿洲牛莊付近で石城郡江名町出身の工兵第二大隊上等兵吉田義氏は去る十七日滿洲牛莊付近で匪賊討伐中左前額部に貫通銃

農家の持米が 續々市場へ

急速な騰貴に煽られて品不足を憂慮

平穀物検査所の調査に依ると本月廿五日頃迄に漸次高値を表して來た米價は四等一俵八圓に迄及んだが本日付では四等一俵八圓三十錢五等で八圓十錢迄に登り此の急速な騰貴に煽られて農家の持米がドン／＼市場

に飛出して居る有様で寧ろ品不足を憂慮されて居る

米澤市から
昭和博に
五小間出品
山形市米澤市産業課では平

組頭會議 廿日平署に

平署管内消防組頭會議は廿日午前十時より平署會議室に行はれるが春期消防檢閲並に消防組員の表彰等に就いて協議を行ふ筈である

湯の岳に 耐寒行軍

石城郡内郷村青年訓練所は日支事件勃發以來刺戟をうけ志氣を鼓舞するため同村吉田高坂、岡田宮堀内町、齊藤御厩油井裁縫の五學校長引卒のもとに訓練生五十余名が廿一日午前八時海抜數千尺の湯の嶽に登り皇居を遙拜し一日夜營をなし耐寒行軍を行ふことになつたが縣下においてもこの試は最初のものである

トラックの 落とし物

石城郡内郷村宇御殿小野ミサ(セ)さんは本月八日長橋町地内でトラック用のシー

ト一枚を拾得平署に届て置いた處右は茨城郡大宮沼田自動車店のトラックが八日鮮魚運搬の爲め長橋町を疾走中紛失したものと判明したが本日前記沼田自動車より平署へ一圓爲替を同封し來たり御禮として拾得者に渡して戴き度いとほるゝ寄せて來た

スリに逢つて 若者青くなる

石城郡湯本町表町雜貨商木村濱吉方雇人双葉郡富岡町生れ藤田雄次郎(一)は廿七日自家の日用品を入山炭礦に納入しての歸途、納入代

水戸觀梅に 平驛から臨時列車

水戸市借樂園の梅樹は最近の暖氣の爲め例年より稍や早くはこころび初た模様であるが水戸市主催の第一回觀梅は來月七日の第一日曜に

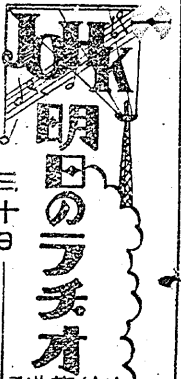
死人を保證人とし 家主を一杯食はす

盲目家主怒つて告訴

平町白銀町の越島テツ(三)は昨年十月五丁目山崎芳松所有の家屋を一ヶ月十二圓の家賃で借入れたが契約の際家主の山崎が盲目であるのを奇貨として借家証の身元引受人を既に死去した知人平町搔樋小路十二、赤井炭礦社員川瀬貞次の名義を以つて胡麻化し其後家賃

平窪少年消防 けふ發會式を

石城郡平窪村小學校の五年生以上の男子全部を以つて豫てより少年消防隊を組織



明日のラジオ

今夜も明日も北西の風晴れたり曇つたり

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間)
お話「冬はなせ寒い」中央氣象臺講師 國富信一
後七、三〇 講演「元師閉院宮殿下參謀總長御就任國民感謝大會開會に就て」大會總務委員柴田徳次郎
後八、〇〇 連續講談「笹野權三郎」終席 大島伯鶴

明日の部

後八、三〇 義太夫「彦山權現警助劍」竹本綴太夫
後九、四〇 時報 全國ニユトス 氣象通報 番組豫告

平職業紹介所報告

▲求人部
△風呂番 五十才以下、面談(江名町某風呂屋)
△理髮職 廿五才以下、高卒、月給十圓位(四丁目某理髮店)
△砂利採取 六十才以下、面談(好間村某請負)
△雜夫 廿五才、尋卒、月五圓位(江名町某商店)
▲求職部
△土工 四五才、高三修給料面談
△風呂番 廿一才、高卒、給料面談(北海道釧路市某)
△菓子職工 十六才、商業一修、給料面談(平町某)
△雜夫 卅九才、無學、給料面談(朝鮮全羅南道某)

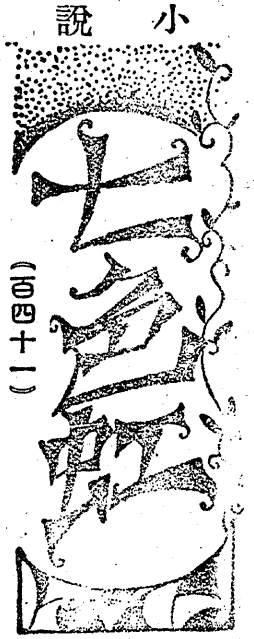
市原醫院

平町田町 電話一四四番

御用命は印刷物の總代理
常磐日報印刷株式會社
電話三六〇番

大塚の
學生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇

大家支製靴部
電話七七番



渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

お通夜 (5)

『慈悲の籠つた有難い御教訓だと思ひますどうぞね、兄さん。あの御教訓にもとらないやうに、此際しつかりした覺悟をきめて下さいな、お父さまの御教訓を空しくしないと云うことが、何よりもお父さんの靈を悦ばして上げる私たちの追善なんですからね、兄さんさうよ』

『む、然うだ。確に然うだ』
源之助は瞬きしながらうなづいた。

『あれは實に深い意味の籠つたお言葉だつたなア、二人とも大に感奮しなければ人間ぢやないのだねえ』
『私、是から、兄さん。何でもいゝから自分の出来さうな職業にありついて、一生懸命に働きますわ。尤も私のやうな者ですから多分の収入だつて得られないでせうけれども、虚榮しみたことさへ避けてゐたらどうか思ひかへて自分の体ぐらひは支へていけるでせうと思ひますわ』

『お前にそんなことをさしちや、此兄さんが濟まないから、それは止めて。』
妹二人の生活ぐらひは僕の

【載轉禁】

働させようよ』
『でも寂しいわねえ。兄さん』
兄妹二人はかたみ代りに越し方行く先のこと共語り會ふて居る折から、廊下先に足音がした。それが室の前へ来て立停つたらしく、二三寸開いていた扉の外でござろ〜と衣摺れの囁きが立つた誰やら室内を覗いてゐるやうな氣配に涙にひたつてゐた源之助はふと首をあげて



『誰だ……誰だ』
と咎めた。すると静かに扉をあげて黙つて入つて來た

らゐの貯金をされなさいことはないでせうから、行々は兄さんの何か爲さる少さな資本ぐらゐにはなつてよ』
『いや、そんなことを爲せる譯にはいかない。僕には僕の責任がある』
『いゝぢやないの。兄妹ですもの、一緒に力を合せて

『どなた……どなた』
と問ひかけた。その人影はエヘへと陰氣な笑ひ方をして
『わたしですよ。お二人とも何だつてこんな眞暗な室に入つて、めそ〜泣いていらつしやるんで。どうせ泣くなら川島や奥さんのゐる明るい座敷のなかへ出て思ひやうさ大きな聲でウンと泣いて見せておやんなせえはぢや余計に陰氣になつちまわア』
『さうゆうのは清作であつた』
『なんだ。木村か』
『お二人とも見えなさらぬえからそちこち捜して歩きましたよ』
『實は一寸ね、私の變つた所をお目に懸けてえと思つたんで……何しろ思つて暗くつちやあ始末にいけねえな。ニート何處についてゐたかなスキツチは』

木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九

梅毒 淋病
皮膚病 婦人病
胃腸病 腸胃病
院醫科 村松
〇七一話電 町南平

川井内科診療所
電話一八一番
女醫學士 川井重子
女醫學士 川井安子

三井の商切手
番八 三三
貨切の御用命は？
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシーへ!!!

五冊の雑誌が自由に讀める
川崎回文庫
電六三〇番
星野時計店
平三丁目驛前通り
一冊の代金で御希望通りな
掛時計及目覺時計は元價販賣に付割引無